

2023年度点検・評価シート

・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針

【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	33 書道学専攻	責任者	高橋利郎	
基準4	教育課程・学習成果	自己評価	A	
★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。				
<<回答>> 教育課程を適切に設定し、公開している。学修成果の測定などについては検討の余地があるが、現状の施策は有効に機能しているものと考えられるため。				
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。			
★<学位授与方針>	文学研究科書道学専攻博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文および修了作品が審査のうえ合格と認められた学生に、修士（書道学）の学位を授与する。 1. （1）書学と書作の両分野における深い知識と高度な技術を修得しており、日本および中国古典を主とした様々な文化を総合的に捉えることができる。 （2）古典中国語（漢文）および古文の読解力を有し、的確に言語を使用することができる。 2. （1）中国および日本の書作品を鑑賞し、批評・分析できるとともに、それを他者に的確に伝えることができる。 （2）自らの考えをまとめ、作品や論考などにおいて豊かに表現することができる。 3. （1）「中国書学」「日本書学」「中国書法」「日本書道」「書跡文化財学」のいずれかに関わるテーマに沿って、主体的に専門性を深めることができる。 （2）書をめぐる東洋文化に立脚した東西文化の交流を図ることができる。		変 更	有() 無(○)
	文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（書道学）の学位を授与する。 1. （1）「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」のいずれかの分野における専門的職業人としての高度な知識を有し、中国および日本の古典を主とした書をめぐる文化を総合的にとらえ、異文化交流におけるリーダーシップを取ることができる。 （2）古典中国語（漢文）および古文の高度な読解力を有し、的確に言語を使用することができる。 2. （1）文献の高度な読解力と作品の精細な観察力をもとに高い分析能力を持ち、論理的に考え、表現することができる。 （2）より高度で専門的な知識を有し、書の文化を総合的にとらえ、社会人としての優れた判断力と表現力によって円滑に研究を遂行することができる。 3. （1）「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」のいずれかに関わるテーマに沿って主体的に専門性を深め、社会の要請に応じて指導的な役割を担うことができる。 （2）書をめぐる東洋文化に立脚した東西文化の交流における中心的な役割を担うことができる。			

評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。
評価の視点2※ 【基礎要件●】	上記の方針の公表は、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。
◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。	
<回答> 特になし	
★<教育課程の編成・実施方針>（記入してください。） 文学研究科書道学専攻博士課程前期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のよう な内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 1 教育内容 「中国書学」「日本書学」「中国書法」「日本書道」「書跡文化財学」の5領域から専門分野を選択し、その分野の演 習科目を必修として2年間にわたって履修し、関連の深い特殊研究科目を選択する。 （1）高度な専門的知識を修得し広い視野に立った研究ができるように、専攻科目と関連科目を設置している。 （2）専攻科目は、研究指導教員による演習科目と講義科目として各分野の専門的な特殊研究科目を設置してい る。 （3）関連科目には、近接の学問分野の科目を置き、さらに外国語科目も設置している。 （4）研究能力を養成するために演習科目を設置し、修士論文を主とした研究論文の指導および研究遂行の基礎と なる文献の読解を行う。また、修了作品においては、作品制作の指導および創作の基礎となる古典の臨書および鑑 賞を行う。 2 教育方法 自己評価と他者評価を踏まえた、学びの振り返りを促していく。 3 評価方法 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）で掲げられた能力の達成状況を、書道学専攻における単位取得状況、研 究指導受講状況、学位論文および修了作品等の結果によって評価するものとする。 文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のよ うな内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 1 教育内容 「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」の3領域から専門分野を選択し、その分野の演習科目を必修として3年 間にわたって履修し、関連の深い特殊研究科目を選択する。 （1）より高度な専門的知識を修得し広い視野に立った研究ができるように、専攻科目と関連科目を設置してい る。 （2）専攻科目は、研究指導教員による演習科目と講義科目として各分野の専門的な特殊研究科目を設置してい る。 （3）研究能力を養成するために演習科目を設置し、博士論文を主とした研究論文の指導および研究遂行の基礎と なる文献の読解を行う。また、学界に通用する緻密かつ独創性のある博士論文の作成を目指す。 2 教育方法 自己評価と他者評価を踏まえた、学びの振り返りを促していく。 3 評価方法 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）で掲げられた能力の達成状況を、書道学専攻における単位 取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって評価するものとする。	変 有() 更 無()
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育について の基本的な考え方を明示している。
評価の視点2 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。
評価の視点3※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7

★※DPとCPの連関について（DPとCPの各項目の番号を矢印で紐づけてください。）

＜前期課程＞

DP1 (1) の「書作と書学の両分野における深い知識と高度な技術を修得」するために CP1 (1) で専攻科目とともに関連科目の履修することを示している。また DP1 (2) の言語に関する事項は CP1 (3) に位置付けている。DP2 (1) (2) の作品の鑑賞や批評などに関する事項は CP1 (4) の演習科目において修得することを示している。DP3 (1) の各自の専門性において「主体的に専門性を深める」ことについては、主に CP1 (2) の専攻科目による学修によることを示している。DP3 (2) の書を中心とする東西文化の交流について、CP1 (3) の外国語科目および(4)の演習科目の履修によることを示している。

DP1 (1) →CP1 (1)

DP1 (2) →CP1 (3)

DP2 (1) (2) →CP1 (1) (2)

DP3 (1) →CP1 (2)

DP3 (2) →CP (1) (3)

＜後期課程＞

DP1 (1) および DP3 (1) の「専門的職業人としての高度な知識」、「主体的に専門性を」深める力の修得のために CP1 (3) に演習科目による研究能力の伸長を位置付けている。また DP1 (2) 、3 (2) の研究に基づいたコミュニケーションについて、おもに CP1 (3) の演習科目をもとにした研究発表活動や CP1 (2) の特殊研究科目における関連分野の修得に位置付けている。DP2 (1) の文献や作品を理解する能力について、おもに CP1 (3) の演習科目における読解や観察によることを示している。DP2 (2) の研究倫理の涵養については CP1 (1) における演習科目、特殊研究科目、双方において多様な価値観を理解する。

DP1 (1) 3 (1) →CP1 (3)

DP1 (2) 3 (2) →CP1 (2) (3)

DP2 (1) →CP1 (3)

DP2 (2) →CP1 (1)

★項目(2) 4-2DP1からDP3について、それぞれの内容がどのようにCPの内容に反映されているのか（あるいは教育課程のどこで具現化されるのか）、その連関について説明してください。

以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のもので、なおここではDP1のみ抜粋ですが続きがあります。

・DP「1. 知識・技能」(1)に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」(2)の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」(1)で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、CP「1. 教育内容」(2)で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。

＜回答＞

＜前期課程＞

DP1 (1) に示した書学、書作に跨がる専門的な学びについては、CP1 (1) の専攻科目と関連科目の設置に紐付けられ、DP1 (2) は CP1 (3) の外国語科目および近接学問分野に関する科目と結びつけられる。DP2 (1) については CP1 全般に関わるものであり、特に (1) (2) において示した演習科目、特殊研究科目などによって学修されるものである。DP2 (2) の作品や論考などの成果のとりまとめについては CP1 (4) で示した演習科目で主要な指導が行われる。DP3 (1) の専門領域の設定については、CP1 の冒頭で 5 つの専門領域を定めることを示している。DP3 (2) については、CP1 (1) および(3)で幅広い知識の修得や関連科目、外国語科目などの修得を位置付けている。

＜後期課程＞

DP1 (1) および DP3 (1) で求める力の修得のために CP1 (3) における研究能力の伸長を図る。DP1 (2) 、3 (2) については、おもに CP1 (3) で設定する演習科目を背景とする研究発表や、CP1 (2) の特殊研究科目における、関連領域の学修によって具体化される。書道学研究的基礎となる DP2 (1) の文献や作品を理解する能力は、おもに CP1 (3) の演習科目における読解や調査活動によって養われる。研究者としての姿勢を養う DP2 (2) については、CP1 (1) 演習科目における研究指導、指導教員以外とのコミュニケーションを必要とする特殊研究科目、双方において実現される。

★教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

＜回答＞

特になし。

点検・評価項目(3) 4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編

	成しているか。	
評価の視点1※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。 根拠資料→A1-2*大学院学則、A4-43Web サイト シラバス	
評価の視点2※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。 根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー	
評価の視点3※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ	
評価の視点4※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-2*大学院学則	
評価の視点5※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。 根拠資料→A1-2*大学院学則、基礎要件確認シート9、10	
評価の視点6※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス	
評価の視点7※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B4-19 研究科 科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要）	
評価の視点8※	コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程を設置している。 根拠資料→B4-19 研究科科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要）	
評価の視点9※	専攻の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ	
評価の視点10	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。	
★項目(3) 4-3①社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、 根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など） を用いて回答してください。		
＜回答＞	「文化財保存学特殊研究」や「書写書道教育特殊研究」など、大学院修了後の職業に結びつく科目を設置しているが、本専攻の修了生の進路は幅広く、書道学の範疇でカバーすることが難しい。	＜根拠資料＞ 33-C4-1 2023 年度シラバス「文化財保存学特殊研究（一）・（二）」、「書写書道教育特殊研究（一）・（二）」
★項目(3) 4-3②当該部局のカリキュラムの編成、授業科目の配置の特性について解説してください。		
＜回答＞	書作と書学を軸に書跡文化財学を加えて、書を実作、理論、文化財という視点から多角的に捉えられるように配置している。また、文学や美術史学、語学など、それらの周辺領域に関する科目も設置している。	
◆ 授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。		
＜回答＞	特にない。	
点検・評価項目(4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
評価の視点1※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス	
評価の視点2※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制	
評価の視点3	学習の進捗と学生の理解度の確認	
★項目(4) 4-4①授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。		
＜回答＞	ガイダンスを実施し、学位取得プロセス及び年間指導スケジュールについて説明を行っている。また、博士論文予備審査、修士論文の中間発表会、修了制作の中間発表会を設け、修了予定者以外の出席も促している。	＜根拠資料＞ 33-C4-2： ①2023 年度書道学専攻年間指導スケジュール

		②2022年度修士論文中間発表会・修了制作中間発表会資料
評価の視点4※	履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む）。 根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項 、（オンラインの場合はWeb サイトも可→別紙の備考に URL 記入）	
評価の視点5※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス	
★項目(4) 4-4②オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているかを確認する方法などについて根拠資料を用いて回答してください。		
<<回答>> 年間計画を示し、それに基づいた指導を行っている。大東書道学会における発表、書学書道史学会への入会と参加を促している。		<<根拠資料>> 33-C4-3 : 2022年度大東書道学会開催資料
評価の視点6※	研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュールなど）をあらかじめ学生に明示し、それに基づく研究指導を実施している。 根拠資料→B4-73 研究科研究指導計画、基礎要件確認シート 13	
◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。		
<<回答>> 特になし		
点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
評価の視点1※ 【基礎要件●】	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-2* 大学院学則、基礎要件確認シート 10,12,13、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料	
評価の視点2※ 【基礎要件●】	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-2* 大学院学則、A4-36* 学位規則、基礎要件確認シート 10,12,13	
◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。		
<<回答>> 特になし		
点検・評価項目(6)	4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
評価の視点1 【評価要件○】	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※成果指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果	
評価の視点2 【評価要件○】	学生の学修成果の測定方法を開発している。 <<学修成果の測定方法例>> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学修成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	

根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果	
★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果(能力や資質)」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。	
<回答> 修士論文の成績(すべての博士課程前期課程院生が修士論文を提出し、合格すること) 博士論文の成績(博士課程後期課程院生の8割以上が博士論文を提出し、提出者の8割以上が合格すること)	<根拠資料> 30-C4-4: 部局ごとの評価指標(2022-2025)
★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果(共通設定と、独自設定含む)について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。	
<回答> 【共通設定】 アンケート結果は、書道学専攻単独ではなく、全学的なものではあるが、学生の満足度が高いことが確認された。 【独自設定】 修士論文・修了制作について、4名が提出し、3名が合格した。 博士論文について、1名が提出し、1名が合格した。	<根拠資料> 30-C4-5: ①部局ごとの評価指標(2022-2025) ②第2回文学研究科委員会議事録要旨(2022年5月16日開催) ③2022年度「修士論文・博士論文」審査報告書
★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。	
<回答> 提出状況や可否について、指導教員を中心とする査読者の合議に基づいているが、専攻全体で結果を共有することによって翌年以降の指導改善に繋げる方策については検討の余地がある。	
★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。	
<回答> 当該年度に提出された論文や作品について専攻会議などで総括し、翌年以降の指導改善に活用すべきであると考えられる。	
点検・評価項目(7)	4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録(または準ずるメール記録):(開催日)2023年度自己点検・評価について
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。
★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。 他大学事例:	
<ul style="list-style-type: none"> 論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理しFD部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。 	
<回答> 論文及び制作の中間発表をもとに学生ごとに必要な個別指導を充実させ、学会発表などに繋げている。	<根拠資料> 30-C4-6: 大東書道学会開催資料
項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。	
<回答> <根拠資料> 30-C4-7:	

自己点検・評価におけるⅣ：改善計画の進捗確認を年度ごとに行い、改善、向上にむけて検討を行っている。また修了時アンケート結果を専攻内で共有し、院生側の声に耳を傾けるようにしている。	①自己点検・評価シート(基準4)「Ⅳ改善計画」、 ②2021年度修了時アンケート
---	---

Ⅱ現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	年度初めに科目担当者会議を開催して、非常勤を含めた教員と現状把握を行っている。論文・制作の中間発表では、大学院担当専任教員も全員参加して質の向上に努めている。
-------	---

Ⅲ今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	学修成果の測定や結果の活用については、合理的かつ学生や教員に有益な方法を見出す努力を継続したい。
--------	--

Ⅳ【改善計画(事業計画)】

カテゴリ	計画番号	B票No. or 開始年度	改善計画(アクションプラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2022-4Ⅲ-1(4-7)	測定・分析計画の活用	測定・分析計画を活用し教育改善計画を実施する。	学生調査と卒業アンケートを組み合わせ、目標の達成度を検証し、教育改善に反映していく。	A(100%)：実施 B(80%)：計画 C(50%)：検討 D(20%)：測定・分析	2022 未結果：D 2023：C 2024：C 2025：B 2026：B 2027：A 2028：A
①	2	2023(2022～継続)	(書道学専攻)『書道学論集』の発行	書道学専攻院生会の自主的な編集によって、『書道学論集』(書道学専攻発行)を刊行する。	院生自らが企画して論文や制作論を執筆し、編集から刊行までを担うことによって、論文や作品の作成能力に加え、研究環境の整備も含めた運営能力を高める。	A(100%)：刊行 B(80%)：編集 C(50%)：原稿のとりまとめ D(20%)：企画	2023：A
①	4	2023(2022～継続)	(書道学専攻)書道学専攻修了制作展の開催	書道学科と共催で学外において修了制作展を開催する。	近年は東京都美術館を会場に修了制作展を開催しており、本年度もこれを基本に開催する。修了制作の成果を広く周知し、多くの来場者から批評を得ることを目標とする。	A(100%)：開催、終了報告 B(80%)：会場や目録などの準備 C(50%)：展示計画 D(20%)：作品制作	2023：A
①	5	2023(2022～継続)	(書道学専攻)書道学専攻特別講義の開催	外部講師(海外からの招聘者を含む)による、特別講義を実施する。	普段の授業では触れられないテーマについて講義を受け、大学院生の研究に関する広汎な関心を喚起する。	A(100%)：開催、報告(院生論集に掲載) B(80%)：教室や資料などの準備 C(50%)：講師依頼 D(20%)：講師、テーマなどの選定	2023：A
①	6	2023	(書道学専攻)博士論文・修士博士論文・修士	博士論文・修士論文の執筆過程	修了予定者が登壇し、大学院在学学生・学部生・教員を含めた意見交換会を開催す	A(100%)：開催、意見交換	2023：A

		(2022 ～継続)	論文の中間発表 会の開催	における中間発表 表を実施する。	る。博士課程修了予定者は予備審査をも ってこれに当てる。院生が相互に学びあ い、意識を高めて刺激しあうことで博士 論文・修士論文のレベルの向上を図る。 同時に、学部生に公開することで、大学 院進学への意欲を喚起する。	B(80%)：教室や資料などの 準備 C(50%)：周知、発表のため の資料作成 D(20%)：日程や教室の調整	
①	7	2023 (2022 ～継続)	(書道学専攻) 修了作品の中間 発表会の開催	修了作品の制作 過程における中 間発表を実施す る。	前期課程修了予定者が、制作過程の修了 作品を持ち寄り、大学院在生・学部 生・教員による意見交換会を開催する。 院生が相互に学びあい、意識を高めて刺 激しあうことで修了作品のレベルの向上 を図る。同時に、学部生に公開すること で、大学院への進学意欲を喚起する。	A(100%)：開催、意見交換 準備 B(80%)：教室や資料などの 準備 C(50%)：周知、発表のため の作品・資料作成 D(20%)：日程や教室の調整	2023：A

V【内部質保証委員会による点検・評価】

2022年度<所見>
卒業生に対して修了アンケートを実施していることや、学修成果を測定するための評価指標の設定がなされたことは一歩前進として評価できる。 2021年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、修士・博士論文の成績としている。活用としては、カリキュラムの検証、DPに示した学習成果（能力の積算）との検証、学修支援内容の検討としている。これらの測定結果は今後、基準4の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。
2023年度<所見>
学習成果の測定方法は、修士論文、博士論文の成績としてそれぞれ評価指標を設定されており、間接評価のアンケート満足度の結果も含めて検証されていることは評価できる。一方、事業計画のアクションプランで「測定・分析計画の活用」を計画されているが、翌年以降の指導改善に繋げる方策については検討の余地があると明記されているので、貴専攻の取り組みが進捗することを期待する。また、院生自らが企画して論文や制作論を執筆し、編集から刊行までを担うという『書道学論集』の発行について成果の評価指標を設定することも一考だと思われる。

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注>「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わ

なければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。